

令和 6 年 6 月 29 日現在

機関番号：37601
 研究種目：基盤研究(C) (一般)
 研究期間：2020～2023
 課題番号：20K02473
 研究課題名(和文) 教師のゲートキーピングと支援の研究 - 米・豪・蘭・西の社会科授業プロトコル分析 -

研究課題名(英文) A Study of Gatekeeping and support of teacher focus on social studies lesson protocol in the U.S, Auستراليا, Netherland, and Spain

研究代表者
 酒井 喜八郎 (SAKAI, Kihachiro)

南九州大学・人間発達学部子ども教育学科・准教授

研究者番号：20760937

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：2021年は、コロナ禍であったが、2022年は、マレーシア国民大学で、「トランスクリプトベースの授業分析法の活用による社会科教師のゲートキーピングの分析」を発表した。2018年に参観したシカゴ実験学校初等部での「ソーダ税に賛成か?反対か?」の授業プロトコル分析から、子どもの思考と教師の支援を明らかにした。また、日米小学校社会科実力教師のゲートキーピングの比較研究を実施し、特質を明らかにした。2023年は、「オーストラリアではどのように小学校教師はシティズンシップを育成する社会科授業をしているのか?—NSW州の歴史授業のゲートキーピングと教師用リソースモデル授業に焦点を当てて—」を論文にした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の意義は 米国カリフォルニア州の小学校実力教師のゲートキーピングを、C3フレームワークのテンプレートを分析し、州スタンダードの検討、市民性を育成する「選挙」をテーマとした社会科授業実践と教師の半構造化インタビューにより、その原理を明らかにし、本質的な問いを促す重要性を示すことができたこと 豪州NSW州の小学校教師の歴史授業を分析し、植民地の人々の視点から「連邦化に賛成か?反対か?」の立場討論を通して市民性を育成するオーストラリアの授業づくりのゲートキーピングを明らかにすることができたことである。 から、わが国の市民性を育成する社会科教師のゲートキーピングについて考えることができた。

研究成果の概要(英文)：In 2021, covid-19 made me not abroad, In 2022, I presented Analyze Gatekeeping of social studies teacher by use of “Transcript-based Lesson Analysis (TBLA)” method in WALS(World Association of Lesson Studies), UNIVERSITI KEBANGSAAN MALAYSIA. I analyzed in 2018, the social studies lesson :soda tax is for or against? at Chicago Laboratory schools. In 2023, I printed the thesis, How can elementary school teachers teach social studies lessons that foster citizenship in Australia? -Focusing on gatekeeping history lessons and teachers’ resources-

研究分野：社会科教育、教育方法学

キーワード：ゲートキーピング 米国 C3フレームワーク 小学校実力教師 シティズンシップ教育 豪州 NSW州 歴史授業

様式 C-19、F-19-1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究のきっかけは、2013年、シティズンシップ教育に関心を持ち、日本学術振興会科学研究費助成事業の奨励研究(2013年4月・2014年3月)を獲得し、酒井喜八郎「シンガポールの社会科授業の動向～多文化教育とシティズンシップ教育との関連から～」というテーマで、シンガポールのシティズンシップ教育の動向と特質を明らかにする研究に着手してからである。

この時も、実際にシンガポールの教育省やNIEを訪れ、小中学校や大学の社会科授業を参観し、教科書や授業を分析することで、シンガポールのシティズンシップ教育や多文化教育の動向と特質を明らかにした。

このシンガポールの研究からスタートし、さらに、第14回国土地理協会研究助成を獲得し、2014年4月「オーストラリアのシティズンシップ教育としての環境教育～ESDを中心に～」というテーマで、オーストラリアのシティズンシップ教育の動向と特質を明らかにした。このオーストラリアの研究は、4年間にわたるものとなった。さらに、これらの研究成果のもとに、2018年には、アメリカのシティズンシップ教育の研究に着手し、シカゴ実験学校の小4「ソーダ税に賛成か？反対か？」の授業のプロトコル(逐語授業記録)分析を実施した。

2. 研究の目的

以上のような研究の背景から、本研究の目的は、教師のゲートキーピング(カリキュラム調整)と支援の方略を明らかにすることとした。2020年から2023年の科研では、アメリカ、オーストラリア、オランダ、スペインの4か国の社会科教師の授業やカリキュラムを分析し、教師のゲートキーピングや支援の方略を明らかにしようとした。

3. 研究の方法

次のような研究方法をとった。

1) アメリカの小学校教師のゲートキーピングの研究手法

ア.方法

(1)2018年にシカゴ実験学校を訪問し、「ソーダ税に賛成か？反対か？」の授業記録を撮っており、その授業のプロトコル(逐語授業記録)から、子どもの思考体制と教師の支援を抽出し、その授業の教師と子どもの相互作用のメカニズムを明らかにする。

(2)2020～22年は、コロナ禍のため、渡米できなかったため、2023年に、米国カリフォルニア州に渡米し、小学校実力教師Rebecca教諭に、半構造化インタビュー調査を実施し、州スタンダードとC3フレームワークの関連を分析し、米国小学校実力教師のゲートキーピング(カリキュラム調整)の特質を明らかにした。

(3)またRebecca教諭が、社会科歴史の授業づくりに影響を受けたKeith C.Barton(*Doing History*の著者の1人)にも学会で会うことができ、講演を聴くことができた。

イ.手続き

(1)米国の小学校実力教師Rebecca教諭(2022年3月31日、8月12日、12月5日に、コロナ禍のため渡米できず、Zoomでインタビューを実施した。

(2)米国の小学校実力教師のRebecca教諭に対しては、さらに、2023年2月25日には、米国で、対面で半構造化インタビューを、2024年2月16日にZoomで実施した。

2) オーストラリアの小学校教師のゲートキーピングの研究手法

(1)オーストラリアのシティズンシップを育成する歴史授業の分析を行う。

(2)本研究で調査を実施したNSW州は、オーストラリアで最も人口が多い州で、州都はシドニーである。研究対象校の公立X小学校はシドニー郊外に位置する創立150年近い歴史を持った学校である。本研究では、X小学校の承諾を得て小5歴史の授業を参観した。

(3)コロナ禍のため、渡豪はできなかったが、2018年2月28日にNSW州のX小学校歴史授業の参観と、教師への半構造化インタビューを実施し、オーストラリアの小学校教師のゲートキーピングを明らかにする。

4. 研究成果

日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究(C)(2020年4月・2023年3月)酒井喜八郎、久野弘幸、田中伸「教師のゲートキーピングと支援の研究—米・豪・蘭・西の社会科授業プロトコル分析—」の研究を実施した。前半はコロナ禍のため海外調査ができなかったが、2018年に授業参観した米国のシカゴ実験学校の社会科授業の分析や、豪州NSW州の歴史授業からシティズンシップを育成する「連邦化に賛成か反対か？」の授業分析を行い、2023年までに論文化することができた。

2022年は、9月21日に、WALS(World Association of Lesson Studies:世界授業研究大会)が、UNIVERSITI KEBANGSAAN MALAYSIA(マレーシア国民大学)で開催され、研究代表者の酒井と研究分担者の久野は、「Analyze Gatekeeping of social studies teacher by use of “Transcript-based Lesson Analysis (TBLA)” method: トランスクリプトベースの授業分析法の活用による社会科教師のゲートキーピングの分析」を発表した。2018年に参観したシカゴ実

験学校初等部での「ソーダ税に賛成か? 反対か?」の授業プロトコル分析から子どもの思考と教師の支援を明らかにした。

また、日米小学校社会科実力教師のゲートキーピングの比較研究を実施し、特質を明らかにした。この研究成果は、2022年10月9日に、全国社会科教育学会とThe International Association Social Studies (ISSA)との連携フォーラム (Zoom 国際会議:「社会科は教室の外の社会とどのようにつながればよいのか?」)で、The relationship between super teacher's gatekeeping and social studies lesson foster the citizenship in elementary school in Japan and U.S というテーマで、発表した。

2023年は、「オーストラリアではどのように小学校教師はシティズンシップを育成する社会科授業をしているのか?」一NSW州の歴史授業のゲートキーピングと教師用リソースモデル授業に焦点を当てて」を論文にした。

本研究は、前半コロナ禍があって海外調査が難しかったが、後半は、マレーシア国民大学での国際学会での発表や、米国のカリフォルニア州の小学校実力教師の半構造化インタビュー調査等から多くの収穫があり、米国の小学校教師のゲートキーピングが、州スタンダードやC3カリキュラムとWhy vote?:なぜ投票するの?という本質的な問いから子どもの主体的な行動へ発展する社会科授業実践との関連から明らかになった。また、豪州のNSW州の小学校教師のゲートキーピングについても、2023年に論文化することができた。今後は、さらに、今回大きな成果があった米豪を中心に、今回コロナ禍で充分調査ができなかった欧州(西:スペイン、蘭:オランダ)のシティズンシップ教育や教師のゲートキーピングの特質も少しずつ明らかにしていきたい。また、研究分担者の田中は、辻本論、三浦寛之と共著で、2021年「教師・歴史学者・社会科教育学者が協働した授業のゲートキーピング-P4Cを用いた歴史教育実践:移民を考える」の紀要論文を『岐阜大学教育学部研究報告』に発表した。今後、さらに、海外や日本のシティズンシップ教育としての社会科授業のカリキュラムや教師のゲートキーピングについて、研究を進めていきたい。そして、公的資質の育成を教科目標とするわが国の社会科教育に、授業研究やカリキュラム研究を通して貢献していきたい。

第5回 **全国社会科教育学会
ISSA連携フォーラム**

社会科は教室の外の社会とどのようにつながればよいのか?

2022年10月9日(日) 14:00~16:30

Zoomオンライン 参加費無料

社会科の学習は、教室の中で完結するわけではない。社会との関わりは、市民性教育において重要な位置を占めるだろう。では、どのような関わり方があるのだろうか。近年のコロナ禍で教室外との実際のつながりが持ちにくい状況の中で、どのような関わり方が生み出されたのだろうか。各国の取り組みを共有し、今後の展望を議論していきたい。

発表者	Eric King-Man Chong (香港教育大学) Seung-Yun Lee (東明大学) 酒井喜八郎 (南九州大学)
指定討論者	桑原敏典 (岡山大学)
コーディネーター	山田秀和 (岡山大学) 田中 伸 (岐阜大学)

使用言語: 英語
スライドには日本語訳をつける予定です。

申込方法
QRコードより必要事項を入力して送信してください。(申込締切)10/3(月)
申込者には10/6ごろにZoomの接続情報をEメールにてお知らせいたします。
全国社会科教育学会のHPからもお申し込みいただけます。

お問い合わせ 山田 秀和(岡山大学学術研究院教育学域)
TEL:086-251-7624 E-mail:hiyamada@okayama-u.ac.jp

Oct. 9th., 2022/ISSA

The relation between superteacher's gatekeeping and social studies lesson foster the citizenship in elementary school in Japan and U.S



Kihachiro Sakai
Minami Kyushu University,
Japan

"Children and modern society" lecture as AL by K.Sakai

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 辻本諭、田中伸、三浦寛之	4. 巻 Vol.45
2. 論文標題 「教師・歴史学者・社会科教育学者が協働した授業のゲートキーピング(2) - P4Cを用いた歴史教育実践：移民を考える」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『岐阜大学教育学部研究報告』	6. 最初と最後の頁 pp.23-32.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Noboru TANAKA	4. 巻 Vol.9
2. 論文標題 Social Studies Education Utilizing Children's Motivations	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The Journal of Social Studies Education in Asia	6. 最初と最後の頁 pp.13-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Noboru TANAKA, Riitta Korhonen, Tapio Heino and Mika Metsarinne	4. 巻 8(2)
2. 論文標題 Professors' views regarding their professional careers, identities, and educational work: Comparative research between Japan and Finland	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Social Studies Lesson Study	6. 最初と最後の頁 pp.127-139
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 辻本諭、田中伸、三浦寛之	4. 巻 Vol.45
2. 論文標題 「教師・歴史学者・社会科教育学者が協働した授業のゲートキーピング(2) - P4Cを用いた歴史教育実践：移民を考える」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『岐阜大学教育学部研究報告』	6. 最初と最後の頁 pp.23-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 酒井喜八郎	4. 巻 Vol.29
2. 論文標題 オーストラリアではどのように小学校教師はシティズンシップを育成する社会科授業をしているのか？～NSW州の歴史授業のゲートキーピングと教師用リソースモデル授業に焦点を当てて～	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『オセアニア教育研究』 (29) 49-65, 2023-12	6. 最初と最後の頁 pp.49-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件（うち招待講演 1件/うち国際学会 2件）

1. 発表者名 Kihachiro Sakai, Hiroyuki Kuno
2. 発表標題 Analyze Gatekeeping of social studies teacher by use of “Transcript-based Lesson Analysis (TBLA)” method
3. 学会等名 WALS(World Association of Lesson Studies) 世界授業研究大会UNIVERSITI KEBANGSAAN MALAYSIAマレーシア国民大学（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kihachiro Sakai
2. 発表標題 The relationship between super teacher 's gatekeeping and social studies lesson foster the citizenship in elementary school in Japan and U.S.
3. 学会等名 The International Social Studies Association(ISSA)フォーラム（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 酒井喜八郎
2. 発表標題 日米小学校社会科実力教師のゲートキーピングの研究
3. 学会等名 全国社会科教育学会（福岡教育大学オンデマンド）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 酒井喜八郎
2. 発表標題 シティズンシップ教育としての社会科教育 ～日・米・豪の社会科教師のゲートキーピングの研究～
3. 学会等名 オセアニア教育学会（相山女学園大学ZOOM）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 酒井喜八郎
2. 発表標題 「SDGsの視点から地理教育を考える～宮崎の観光業に注目して～」
3. 学会等名 名古屋地理学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 酒井喜八郎
2. 発表標題 「社会科教師のゲートキーピング～米・豪・西の授業参観・インタビュー・板書 と教室掲示から～」
3. 学会等名 日本カリキュラム学会（於：琉球大学）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 酒井喜八郎
2. 発表標題 「社会科教師のゲートキーピング～日本とアメリカの授業の比較から」
3. 学会等名 日本教育方法学会（於：宮城教育大学）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 酒井喜八郎
2. 発表標題 SDGsの視点から地理教育を考える～宮崎の観光業に注目して～
3. 学会等名 名古屋地理学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 酒井喜八郎
2. 発表標題 社会科教師のゲートキーピング～米・豪・西の授業参観・インタビュー・板書 と教室掲示から～
3. 学会等名 日本カリキュラム学会（於：琉球大学）
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 酒井喜八郎	4. 発行年 2022年
2. 出版社 明治図書出版	5. 総ページ数 268
3. 書名 「オーストラリアの社会系教科教育」（分担執筆pp.238-239）『社会科重要用語事典』	

1. 著者名 酒井喜八郎（分担執筆pp.157-164）伊藤裕康編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 学術図書出版	5. 総ページ数 260
3. 書名 「小村寿太郎と条約改正」『社会科教育のリバイバルへの途～社会への扉を拓く「地域」教材開発～』	

1. 著者名 酒井喜八郎 (分担執筆pp.166-174) 伊藤裕康編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 学術図書出版	5. 総ページ数 260
3. 書名 「地域教材を活用した小中一貫性のある社会科の学習」 『社会科教育のリバイバルへの途～社会への扉を拓く「地域」教材開発～』	

1. 著者名 M.R. グレゴリー他著、小玉重夫監修 豊田光世、田中伸、田端健人訳者代表	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 383
3. 書名 『子どものための哲学教育ハンドブック-世界で広がる探究学習-』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	久野 弘幸 (KUNO Hiroyuki) (30325302)	中京大学・教養教育研究院・教授 (33908)	
研究分担者	田中 伸 (TANAKA Noboru) (70508465)	岐阜大学・教育学部・准教授 (13701)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------